



今回のテーマ

栄養不良と新型コロナ肺炎

前号で紹介したように、栄養不良と病気の悪循環が生じます(感染症は養素の接種・吸収そして体内での活用を妨げ、栄養不良をもたらします。一方、栄養不良により免疫力が衰え、病気にかかりやすくなる)。世界で蔓延する新型コロナ肺炎(COVID19)は、この悪循環を増幅させています。栄養状態が悪いと重症化するリスクが高まります。治療方法が見つからない感染症にとって、免疫力を高めるための適切な栄養摂取の重要性が高まっています。アジアやアフリカの栄養不良が多い国々では、感染した母親から乳幼児児への感染や大勢の人が密集する難民キャンプや食料配布ポイントでの集団感染リスクが指摘されていて、これに対して手洗いや衛生管理のための行動変容の強化やその他の対応策の検討が急務になっています。一方、社会的な予防措置が中長期的に食料アクセスを低めるリスクが危惧されています。そして、従来から栄養状態の悪い地域では、今後さらに食糧や栄養を取り巻く環境の急激な悪化が懸念されています。NAMIは、今後こうしたCOVIDによる栄養不良への影響を注意深く情報収集し、発信していこうと思っています。

連続ワークショップ「国際栄養の現状と課題(第8回)」

2019年10月1日に、地球環境パートナーシッププラザにおいてワークショップ「国際栄養の現状と課題(第8回)」(栄養改善のための行動変容)がおこなわれ、36名が参加しました。人間の行動変容はほとんど全ての開発援助の中心課題とされているものです。日々の生活の中での様々な行動の改善が様々な保健栄養問題の予防につながり、栄養に関係するサービスや栄養食品・資材の提供の効果は受益者の行動に大きく左右されます。今回のワークショップは、行動の変容の仕組みに触れながら、栄養改善に必要な行動とその調査法、さらにこれを変容させるための効果的なアプローチを紹介します。講師がミャンマー、ナイジェリア、ガーナ、アフガニスタンの現場で最近実施した調査データ、ビデオ、画像を活用し、実践的で活用できる内容に配慮しました。

栄養調査(ナイジェリア、ミャンマー)

北部ナイジェリアのボルノ州において前回実施した、「母親の乳幼児摂食習慣(IYCF)に関するバリア分析調査」の結果、IYCFの行動変容に父親が大きな影響をもたらしていることがわかりました。そこで、今回は父親の栄養に関する知識・意識・習慣(KAP)調査を実施しました。調査から、父親に対するアプローチの提言がまとめられた。

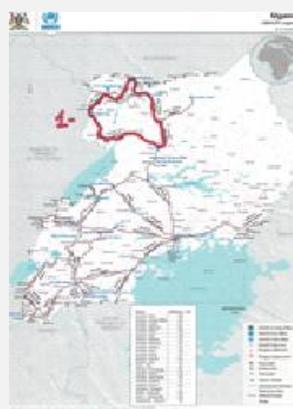
また、ミャンマーで「母親MUAC調査」を開始しました。MUACは子どもの上腕の周囲のことで、急性栄養不良を見つけ出すための測定方法です。従来は、コミュニティ保健ワーカーがMUAC測定によるスクリーニングをしていましたが、これを母親が行うことで急性栄養不良児の早期発見が可能になります。特に、今後COVIDの蔓延する状況でも注目される取り組みです。

学校保健栄養教育トレーニングマニュアル作成

Rise against Hunger (RAH)と共同して開始した、「学校保健栄養教育のためのマニュアル」が完成しました。本マニュアルは、栄養、水と衛生、マラリア、リプロダクティブヘルス、学校農園、の5つのモジュールから構成されていて、各学級で授業をしたあと、生徒が実習したり、自主的な活動を行うような構成になっています。



北部ウガンダ栄養プロジェクト



NAMがウガンダ北部の難民キャンプにおいて計画していた栄養改善事業に対し、国際協力システム(JICS)の助成を受けてことができました。ウガンダは長い国内紛争、周辺国からの難民流入、気候変動などの影響で貧困に苦しんでいます。現在140万人いるとされる難民の大部分は南スーダンから流入しウガンダ北部の難民キャンプに収容されています。対象地域の関係者、リーダー、母親の栄養と乳幼児育児ケアの意識・知識を改善することを目的としています。そのために、母親グループを組織して現地の実情に適した指導活動を行います。また、ポジティブ・デビアンس(PD)を使って地域で利用可能な習慣や食材を利用し、持続可能な栄養改善を目指します。

JICA課題別研修「母子栄養改善」

「母子栄養改善」研修(第6回)が、11月4,5日に行われました。今回は、12カ国(シエラレオン、マダガスカル、モーリタニア、モザンビーク、マラウイ、ガーナ、ジンバブエ、ナイジェリア、インドネシア、ミャンマー、東チモール)から計12名の参加者を対象に、「栄養改善のモニタリング評価」に関するワークショップをファシリテートしました。栄養改善事業のモニタリング評価するための様々な指標の紹介、そして、指標データの入手方法まで演習を行いました。また、2日目の後半には、新しく「栄養改善の呼応同変容」についてのセッションも行いました。

今後の計画

COVID19の状況を見ながら、ウガンダ事業を開始する予定です。また、COVIDが栄養不良に及ぼす影響についての情報収集と発信を行い、連続ワークショップ「国際栄養の現状と課題」などでも共有したいと考えています。2020年東京オリンピックに連動して開催予定の「成長のための栄養サミット」は、オリンピック延期に伴い延期されることになりました。引き続き政策提言、ネットワーク活動を活発化その他、研修・講義、地域の国際協力イベントなどでの出展やセミナーなどを行います。